

## 序

本校は2002年度にスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定され、以来、2007年度に第二期、2012年度に第三期の認定を受け、現在は2017年度から第四期の取り組みを行っています。本校取り組みの特徴は、第一期から一貫して、理系・文系の区別なく、中学校・高等学校の全校生徒が先進的な科学を探究する活動を実施していることです。これは本校の教育課程が理系・文系といった区別をせずに実施していることにも関係しますが、大きくは、学びに理系・文系の区別をすることに意味を見い出せない指導者層の強い思いによっているかと思います。今期の目標は探究型学習教材と学習プログラムを開発・実践し、その成果を検証して理数系人材育成に効果的な学習システムを構築し、中等教育現場への発信と共有を図ることです。この目的達成のために、数学科では沢山の教材を開発し、出版して公開するだけでなく、全国の高校と連携して出前授業を実施し指導力の相互向上を図ったり、SSH全国数学科教員研究会を実施したりしています。また、学校の全教員が一丸となって取り組む教員免許状更新講習の実施や1974年度から継続して全教科で開催している教育研究会など、年間に様々な機会を作って成果を発信しております。

日々の教育実践成果をつぶさに取りまとめたこの駒場論集は2000年度に発刊されましたが、これは1960年度に発刊された研究報告を引き継ぐもので、この第1号から数えて、現在までに57号が発刊され、520の研究などが報告されています。この論集は、本校における日常的な教育研究・教育実践の成果をまとめたもので、各教科教員で構成される教科グループが数年の期間で研究プロジェクトを実施し、その成果が報告される他、教員による個別研究が報告されています。第58号となる今回の論集は、各教科および生徒部からのプロジェクト研究報告と共に、保健体育科教員と養護科教員の合同研究、並びに英語科教員の個人研究が掲載されています。本論集をとりまとめることで、本校教員にとりましては日頃の教育活動を見直し、新たな取り組みへとつなげる原動力となり、本校以外の先生方にとりましては本校の実践的、先導的研究を知っていただける良い機会となっています。

この論集に掲載された内容が、関係各位の教育活動のご参考に少しでもなるならば幸いに存じます。加えて本校及び関係各位における教育実践のより一層の充実を図るため、本論集への忌憚のないご意見、ご批判、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。

2019年3月

筑波大学附属駒場中・高等学校  
校長 林 久喜